

(縁・円・援)

# 兵庫えんだより



このニュースレターは、市町社協の生活支援コーディネーター、住民等が創意工夫しながら行われている生活支援、地域活動をお伝えするために発行いたします。

## ～地域を超えて知恵を出し合い、循環する～

### 南あわじ市: マスクづくり

南あわじ市社協では、マスクがないなら作ろうと、縫うのが得意な方を「あつまれ！縫野得枝さん」と題して広報誌で募集すると、神戸新聞にとりあげられ、大反響がありました。159人の縫野得枝さんが2324枚のマスクを作って、マスクのない人に渡します。このマスクづくりはほかの市内にも広がり、公民館で型紙を配りできあがったマスクを隣保内で融通しています。

ここがポイント

役割づくり

つながり

### 淡路市: 声かけ

淡路市社協では、南あわじ市社協を参考に「縫野得枝さん」の妹のような「縫野得子さん」ネットワークで「あなたにできるマスクを届けてあげて」と住民に呼びかけ、気になる人の家にお便りをつけてポストイング計画を進めています。コロナで分断されない連帯感を目指しています。

ぬうの とくこ  
**縫野 得枝さん**



親戚!?!の  
こえかけ  
**声掛 太郎**

たろう よ  
**声掛 太郎・ます代さん**

妹!?!の  
**縫野 得子さん**



こえ かけお かけお  
**声 掛雄・掛代さん**



さらに、南あわじ市社協は、淡路市社協を参考にしました。淡路市の「声掛男・掛代さん」とは親戚関係です。遠くからでも「元気か〜!」と声かけます。

ここがポイント

情報共有と孤立予防

コロナによって生まれる「孤立」を防ぐと、「声 掛雄・掛代さんになってください」と、普段の生活で「手を振って」心を通わせようと呼びかけています。

- 地域を超えた情報共有により、自分の地域流儀に変えていくことを住民とともに考えていくことができる。
- マスク+お便りや、手を振ることで、つながりを維持することができる。

【発行元】(令和2年5月15日発行)  
〒651-0062 神戸市中央区坂口通2丁目1番1号  
兵庫県社会福祉協議会 地域福祉部  
TEL 078-242-4634 FAX 078-242-0297  
E-Mail: chiiki-2@hyogo-wel.or.jp (担当: 山下・永坂)

## 住民発：窓にメッセージを貼ろう！（西宮市）

この4月から、「共生型地域交流拠点」が地域住民の力で2か所、オープンすることになりました。その1つは阪神淡路大震災の復興住宅が立ち並ぶ「西宮浜地域」です。

ここは、唯一、地区社協組織がなく、市社協と住民と一緒に昼食会や子育てサロンといった事業を展開しながら、組織づくりを試みてきたところです。組織化が難しい状況が続く中で、現在の自治協議会の会長の思いに、市社協の地区担当と生活支援コーディネーターが寄り添い、そして、他の住民の参画も得ながら、形になってきた常設の地域拠点（カフェ）です。

新型コロナにより、オープンは延びてしまいましたが、住民さんの発想もあり、窓にメッセージを貼り、掲示板のように利用し、集まらなくても思いを伝えるような取り組みをしています。

こういった住民の活動に私たちワーカーは励まされているな、と改めて気づいた次第です。

（西宮市社協 生活支援コーディネーター 高井さん談）



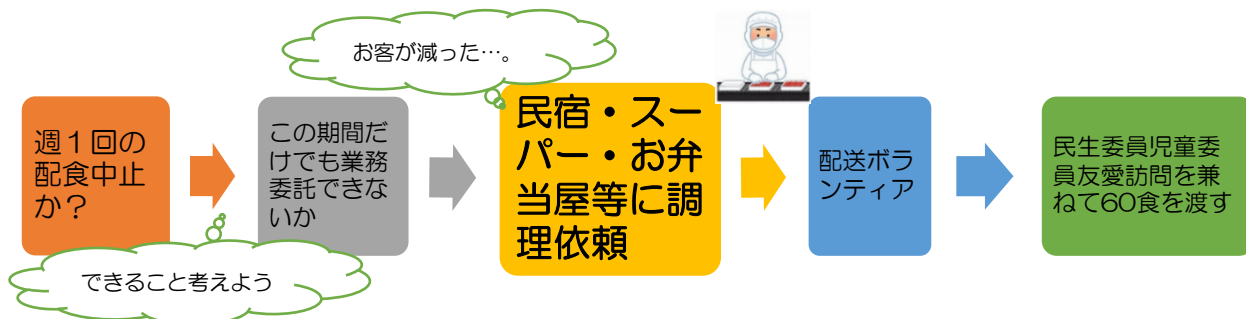
ここがポイント

### つながり

（メッセージが張られた地域拠点）

- 交流拠点の窓にメッセージを貼る。集まらなくても思いを伝えることができる。
- これまで積み上げてきた住民の「思い」に寄り添うことができる。

## まちが一つになった！（新温泉町）



新温泉町社協では、新型コロナウイルスの影響で週1回の配食を中止ではなく、調理・配送・配食にわけ、調理を町内のスーパーやお弁当屋さん、民宿、居酒屋等に業務委託することにしました。

お店の方々に「こんな良いお弁当をボランティアで作っていたのか！」と驚かれ、社協の周知にもつながりました。

調理されたお弁当は、配送ボランティアさんが民生委員児童委員さんに届け、そして、友愛訪問を兼ねて個別に渡すという形に変えました。「できないこと」ではなく、「できること」を考えていこうという取り組みです。

これらを通して、まちがひとつになったような気がします。

（新温泉町社協 生活支援コーディネーター 小南さん談）

ここがポイント

### 生活支援・まちの活性化

- お店に調理を依頼し配食を維持した結果、まちの新たな資源発見と、お互いに知り合うきっかけになった。
- 「できない」ピンチを「できること」を考えるチャンスに変えていく。

【編集後記】今回は、県内市町の3月、4月初期の活動を報告させていただきました。誰もが迷いながら動き出していますが、こんな時でも地域との協働に心打たれることがたくさんありました。